

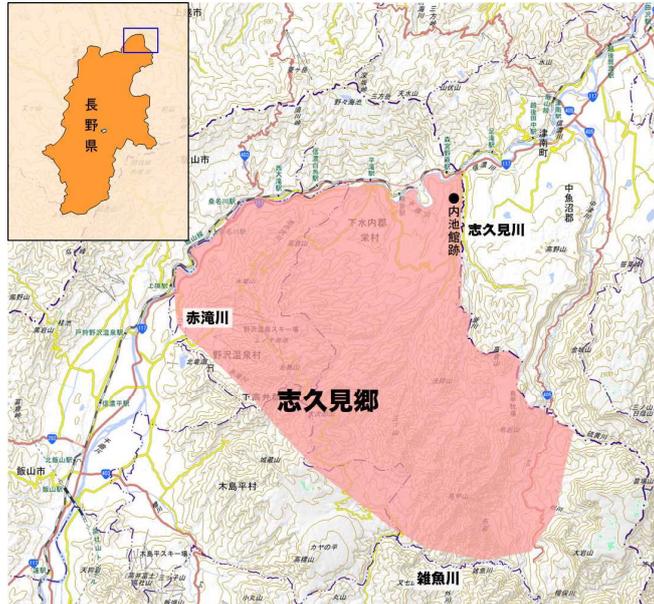
志久見郷と市河氏

栄小学校 宇佐美 昌博

1 はじめに

「志久見」は、現在、栄村の東部谷にある一地区の名称である。長野県と新潟県境を流れる川は志久見川である。

市河氏の支配していた「志久見郷」は、栄村堺地籍と野沢温泉村を含む広い地域を指す。栄村で学ぶ子どもたちの多くは、志久見郷のことも市河氏のこと、学校で学ぶことがないのが現状である。そこで、志久見郷と市河氏について調査することを通して、教材化ができないか探ることにした。



「激動を生きぬく―信濃武士市河氏の400年」
(長野県立歴史館)を参考にした。
国土地理院地図を使用して作成

2 内池館(市河氏館)跡



内池館跡を示す石碑



田んぼの中の内池館跡



立てられた説明看板

水田の中の一画に内池館跡を示す説明看板や石碑等が存在する。

3 市河氏略年表 (「堺村史」, 「激動を生きぬく」を参考に作成)

- | | | |
|-------|------------------------------|-----------------------|
| 1184年 | 中野氏が所領安堵され、地頭に任命される | →志久見に内池館を造る |
| 鎌倉時代 | 中野氏と市河氏との領地争い | →鎌倉幕府の下知によって市河氏の支配となる |
| 鎌倉末期 | 新田義貞に味方し、鎌倉幕府を倒す | |
| 室町時代 | 高梨氏(越後・長尾氏に味方)との勢力争い | →甲斐・武田氏との関係を深める |
| 1557年 | 長尾景虎(上杉謙信)の川中島侵攻(志久見郷にも侵攻) | →武田氏からの越後上杉勢への対抗要請 |
| 1582年 | 武田氏滅亡、織田信長死去により、信濃北部4郡を上杉氏領有 | →上杉氏の家臣となる |
| 1598年 | 上杉景勝、会津に転封 | →上杉氏に従い会津へ |

4 志久見古道



内池館跡のある栄村志久見地区から小滝地区を結ぶ古道で、善光寺に通じる古道の一部。小滝地区の方々による整備が行われており通行できる。大峠、小峠からの眺望が良い。小峠では、長野県北部地震のために起こった崩落、地割れの様子が見える。2018年11月、栄小5・6年児童と歩いた。所要時間は、1時間30分程度。夏から秋にかけては、熊出没注意。

5 教材化に関連して

(1) 栄村歴史文化館「こらっせ」(志久見古道地図中●)

旧東部小学校志久見分校を改修し設立された施設。古民具の展示、廣瀬家土蔵再現スペース他、市河氏、古道、栄村の城などのパネル展示がある。月曜休館。公民館が併設されており、職員の方々にたずねることもできる。

(2) 小滝四ッ回りの運河跡 (志久見古道地図中★)

江戸時代に開発された運河跡で、苗場山麓ジオパークのジオサイトに指定されている。

積荷は、下り船では、絞りたばこや胡麻油、糊入紙や木綿布など、上り船では五泉茶や村上茶、塩や海産物や魚類、瀬戸物類などであったという記録が残っている。四ッ回りの河原では、掘割斜面上に上り船を押し上げるための足掛け穴等が見られる。(苗場山麓ジオパークパンフレット資料より抜粋)

(3) 小滝地区「古道復活プロジェクト」, 「合同会社小滝プラス」

長野県北部地震(2011)後、17戸から13戸に減ってしまった小滝地区の方々が、集落への愛着から古道を整備した。また、「この地で300年続いてきた想いや営みを300年後に引き継ぐ」という夢とロマンを掲げ、田んぼを守りおいしい小滝米を作ること、古民家を拠点として集落外の方と交流を持つことを柱に掲げ、集落維持活動を円滑に進めるため、全戸が出資した小滝集落の「合同会社小滝プラス」を設立した。小滝地区は、第9回地域再生大賞優秀賞を受賞(2019)した。また、小滝米は、「コタキホワイト」のブランドで販売されており、「日本ギフト大賞2016長野賞」を受賞した。

(4) 長野県立歴史館「市河文書」 https://www.npmh.net/archives/komonjo_sub.php?n=190&t=1

「市河文書」は平安時代末から戦国時代に至る約400年間の市河氏の動向を記した信濃国を代表する武家文書である。現存している唯一の史料とされる木曾義仲下文が含まれ、全国的に見ても貴重な武家文書として高く評価され、重要文化財に指定されている。(長野県立歴史館HPより引用)